

患者必携配布に向けた検討について

インターネットの利用の有無に関わらず、得られる情報に差が生じないようにする必要
があることから、がんに関する情報を掲載したパンフレットやがん患者が必要な情
報を取りまとめた患者必携を作成し、拠点病院等がん診療を行っている医療機関
に提供していく。

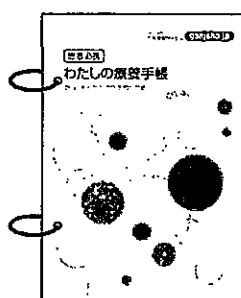
- 当該パンフレットや、がんの種類による特性等も踏まえた患者必携等に含まれる情
報をすべてのがん患者及びその家族が入手できるようにすることを目標とする。



A4判 自宅保管

がんと向き合うための
横断的情報

心のサポート
療養情報
生活支援情報
体験談



A5判 携帯

書き込み式
バイнда

都道府県・地域の
ページを差し込み

チェックリスト
診療メモ
ダイアリー
かかりつけリスト



A5シート/冊子

地域に特化した
情報

医療機関
支援窓口

がん情報サービス ganjoho.jp

前回以降の活動

- H21年 6月 第10回がん対策推進協議会に試作版提示
試作版をがん情報サービスから公開
Webアンケート(53名、11月26日時点)
- 7月 全国がん対策関係主管課長会議、都道府県がん診療連携
拠点病院連絡協議会で紹介
市民向けがん情報講演会(652名)
- 7月～ 普及方法について検討
- 7～9月 推進協議会メンバー等にヒアリング(6名)
- 9月 患者・市民パネルに「内容と構成」「普及の進め方」に関す
るアンケート実施(68名回答)
- 10月 完成版にむけた患者市民パネル検討会(46名参加)
- 10～1月 6施設で試験配布(第3次対がん渡邊班)
茨城県立中央、栃木がん、四国がん、高知医療セ
琉球大学、静岡がん(医療者のみ)
- 12月 拠点病院に対するアンケート(同研究班)
- 12月 第11回がん対策推進協議会に完成版作成に向けた
改修案・配布方針提示

がん情報サービス ganjoho.jp

患者必携試作版に対する意見のまとめ

<内容と構成について>

1. 各がん種の部分を含める必要はないのでは
2. 用語集を充実すべき
3. 「患者さんの手記」がもっとあった方がよい
4. 手にとるガイドも、大きさを統一し、携帯できるようした方がよい。
5. 地域情報の作成は、各地域で取り組むことが望ましい

<配布方法、普及の進め方について>

1. まずは、新たに診断された方を優先すべき
2. ただ、渡すだけでなく、医療者から使い方などについての説明が必要
3. 医療者についても、十分な説明が必要
4. しっかりと体制が整った施設から、配布を始める
5. すべての医療機関に見本をおくなど、広く存在を知らせることが必要
6. 配布施設について、まずは、拠点病院からということで良いが、地域の状況等踏まえ、各都道府県の推進協議会で検討するのが良いと考える。

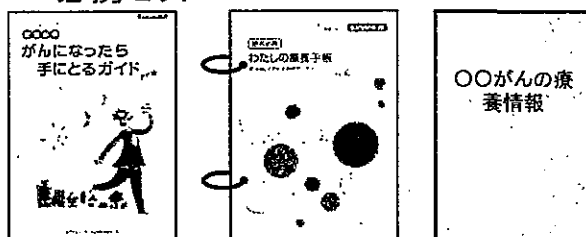
3

がん情報サービス ganjoho.jp

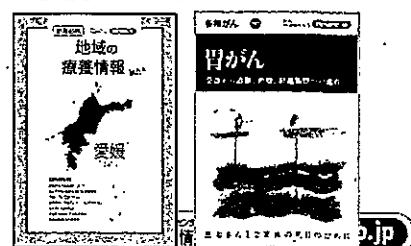
患者必携完成版に向けた方針(案)

1. 「がんになったら手にとるガイド」のサイズ変更
(A4版→A5版) 文字サイズはそのまま
2. 各がん種の療養情報を〇〇がんの療養情報として分冊化
胃がん、大腸がん、乳がん、肝細胞がん、肺がん、血液・リンパのがん、小児がん、食道がん、胆道と膵臓のがん、子宮・卵巣がん、腎臓・尿管・膀胱のがん、前立腺がん、頭頸部のがん、脳の腫瘍、骨と軟部組織のがん、皮膚のがん(16種類)
3. 用語集・「患者さんの手記」を追加
4. 地域情報について、ひな形を示すのみとし、各都道府県版の作成は都道府県に委ねる

必携セット

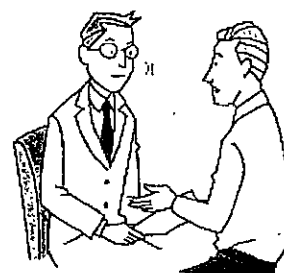


必携ファミリー



配布に向けた方針(案)

がんの診断が伝えられて間もない時期の患者に
担当医の指示により
担当医、看護師、相談員等医療機関スタッフから
医療機関にて渡す



1. 都道府県拠点病院等、配布体制が整備された拠点病院から配布を開始する
2. 配布施設については、各都道府県で決めていただく(当初は、施設を限定し、段階的に増やしていく)
3. 受注・配送センターを準備し、配布施設からの連絡で配送する
4. 配布施設のためのマニュアル等の作成
5. 必携に関する問い合わせ窓口を用意する
6. 認知度向上のための広報を実施する

上記体制が整う平成22年度後半を配布開始を想定する。

5